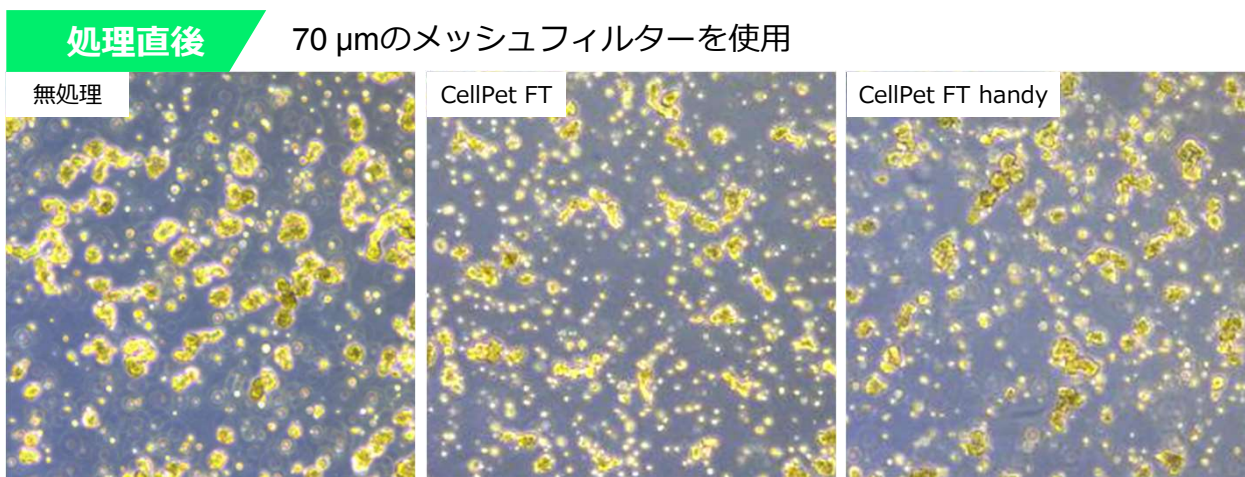


CellPet FTを用いたF-PDOの小片化/抗がん剤評価

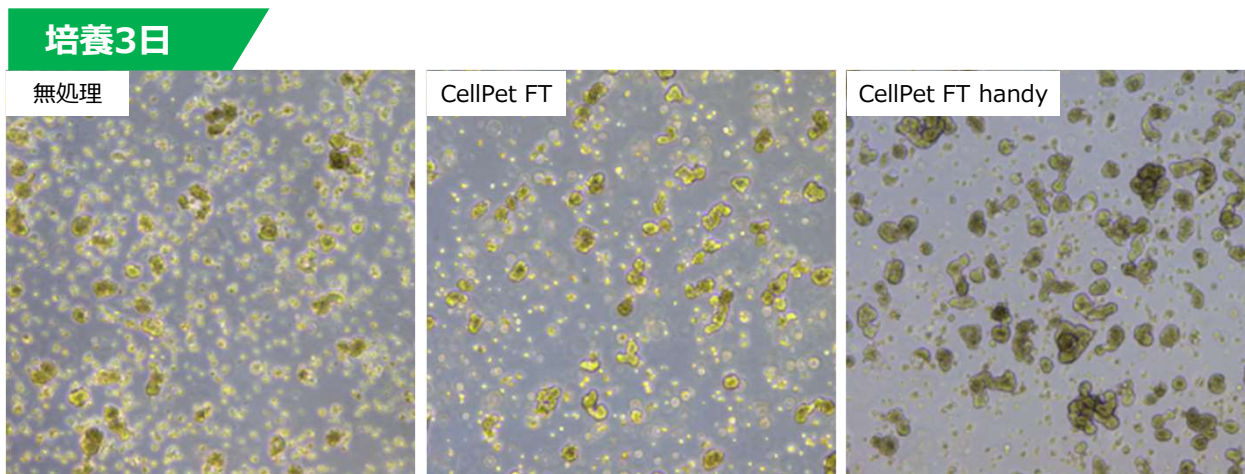
細胞種：RLUN7-2 (F-PDO; 福島県立医科大学医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター)
 HP：<https://www.fmu.ac.jp/home/trc/provision/f-pdo/> を参照

RLUN7-2 (CTR#30040)				
小片化条件	なし	CellPet FT	CellPet FT handy	
培地	MammoCult			
フィルターサイズ	-	70	70	
希釈倍率	10			
化合物数	8			
処理時間(h)	144			
CV値	0時間	23.5%	19.5%	20.6%
	培養後	5.2%	5.8%	3.4%
細胞増殖	溶媒	1.96	1.52	1.72
	無処理	1.37	2.11	1.93

- 使用抗がん剤
- ・ Mitomycin C
 - ・ Paclitaxel
 - ・ Afatinib
 - ・ Lapatinib
 - ・ Erlotinib
 - ・ Gefitinib
 - ・ Osimertinib
 - ・ Rociletinib

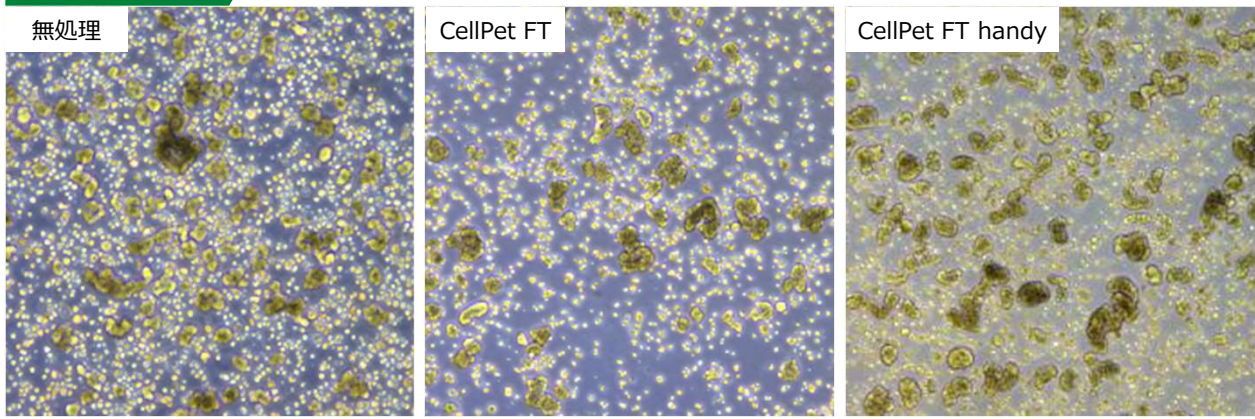


小片化処理後は無処理より細かくなった。FTとHandyで、細胞塊のサイズに差はなかった。



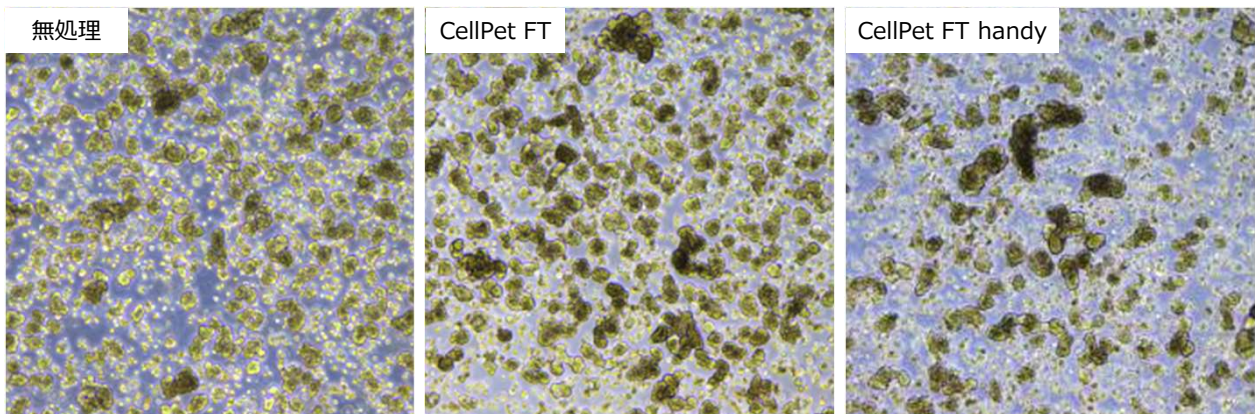
細胞量は全て同程度だった。

培養9日



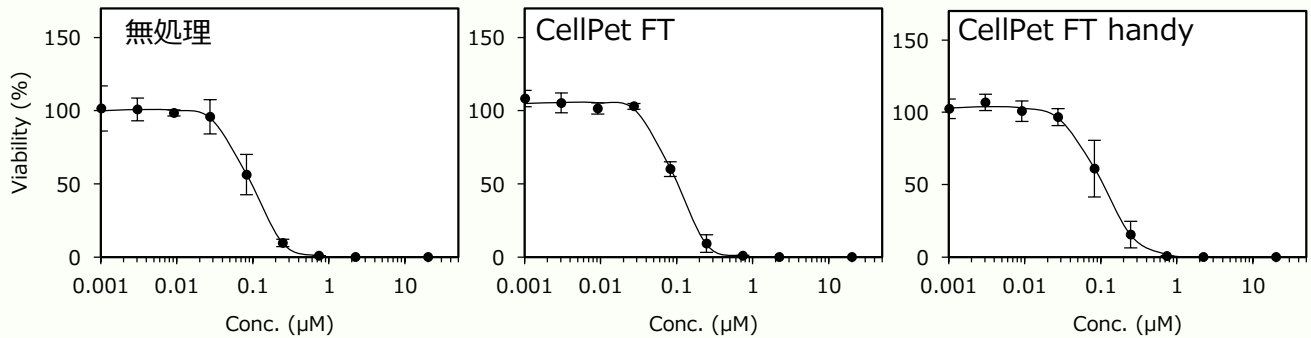
細胞量は全て同程度、細胞塊のサイズもほとんど差がなかった。

培養13日

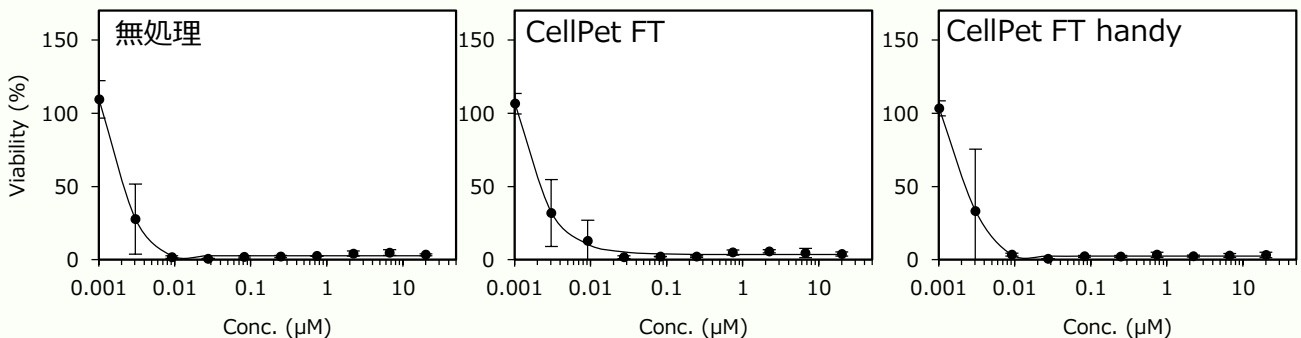


増殖速度は無処理、FT、FT handyで差はなかった。細胞の見た目も無処理と差はなかった。

Mitomycin C



Paclitaxel



使用した8種類の抗がん剤(代表上記2例)において、小片化条件の違いによるIC₅₀値の差はなかった。